

こころ



情けは人のためならず

「情けは人のためならず」の正しい意味はどっち？

- 1 「人に情けを掛けておくと、巡り巡って結局は自分のためになる」
- 2 「人に情けを掛けて助けてやることは、結局はその人のためにならない」

文化庁「国語に関する世論調査」（平成 22 年度）では、その 10 年前の平成 12 年度の調査とほぼ等々で、半々の回答。10 年後の令和 2 年度に、もう一度この項目が調査されると思ったのですが、未調査なので直近の傾向は不明。でも、似たようなものでしょう。

正解は 1 ですが、「情け」は現代語では「同情」というニュアンスで使われることが多く、「ならず」は、「ならない」ととらえ、「同情は人のためにならない」と解釈したことから 2 の誤用が生じたものと思われます。この「情けは人のためならず」の出典は、源氏物語だとか曾我物語だとか、諸説あるようですが、いずれも古語で解釈すべきということ。そうになると、古語「ならず」は打ち消しで、「人のためではなく自分のため」となることや古語「情け」も「思いやり」という語意があり、「人を思いやる心は、自分に返ってきて、自分のためになる」とするのが、正しい解釈。

このことを心理学的に説明すると、他者に対して思いやりを持って接することで、そう接する自分に対して自己肯定感が高まり、自分を愛せる人間になる。これが「多幸福感」を生み、生きる意味や自分の価値を受け止めやすくなると考えられています。

つまり、「情けは人のためならず」の意味である「人を思いやる心は、自分に返ってきて、自分のためになる」は、他者に親切にしていると他者からいつか何かしてもらえるという、Give and take のことではなく、思いやりのある言動が自分への自己肯定感を高め、幸福感を得られると言うことになります。

逆に、「いじめ」の心理状態は、どういうことになるのでしょうか。「いじめは人のためならず」という造語で考えてみましょう。

他者の悪口を言う。意図して傷つける行動をとる。無視するなども心理的な圧迫でしょう。「うざい」といった日常的に使いそうな言葉でも、相手の心理状態や状況によっては、深く傷つけることもあります。匿名性の高いネットだけでなく、かなり意図的にネット上のグループ内で悪口、陰口をやりとりするなども世の中では散見するようです。

「いじめは人のためならず」は、「いじめは他者を傷つけるだけでなく、巡り巡って自分を傷つけていく」の意味になります。相手に向けていると思っている言葉は、実は、自分の心の奥底をむしばんでいくのです。そして、自己肯定感を下げ続ける心理状態になっていくと、捉えられます。

自分の心をむしばむのを止めるにはどうしたらいいのでしょうか。簡単なことです。「いじめ」を止めることです。ただ、いじめは無自覚無意識である場合もあります。「情けは人のためならず」です。まずは、思いやりや親切を尊いものとして言動を切り替えてみましょう。